

国府台への出張後、  
公園のベンチに腰掛け、  
自動販売機で買った  
缶コーヒーを飲んでみると、  
「時間があるのなら、皆を連れて動物園に行ったら……」  
と、亡母の声に似た響きが……。  
誰かいるのか？と、辺りを見渡すものの、  
それらしき人影は見当たらず……。  
が、ベンチを立とうとすると、  
間違いなく亡母の、  
「動物園に寄って行ったら」との声が……。  
「空耳？まさか」と思いながら、  
歩き始めると、  
開園して間もない、  
昭和末期の市川市動物園の情景が、  
浮んできた。  
亡母や息子、娘たちと楽しく過ごした  
遠い日の思い出が、  
克明に蘇ってくる。  
山国には無い、  
広々とした平野の広がり  
果てしない海が、何とも眩しい。